

魚津市からの2人目の民間等共同研究員の受け入れ

博物館の利活用とエコミュージアム (フィールドミュージアム) 構想にむけて

19

市役所職員が共同研究員として大学へ

地域連携推進機構と魚津市による共同研究は、平成23年度から始まりました。この取り組みによって、魚津三太郎塾が開講、地域産業に携わる人材育成が始まりました【P21参照】。平成23年10月には「魚津市と富山大学との連携協力に関する包括協定書」締結により、相互の連携を強化し、地域のより一層の飛躍・発展に資するため、さらなる地域連携研究の発展や深化を図ってきました。

平成25年度からは、民間等共同研究員の派遣が1名増え、2名体制となりました。増員した研究員は、博物館で勤務した経験を生かし、「魚津市内の博物館の利活用とエコミュージアム(フィールドミュージアム)構想」を研究テーマに設定しました。

魚津市内には現在、水族館・埋没林博物館・歴史民俗博物館があり、各館の特性を生かした展示・普及活動が行われています。全国的に公共施設の統廃合が検討されるなか、「地域に必要とされる博物館」とはどのようなものか、また各博物館の連携のあり方、有効的な活用策を考えてきました。併せて、魚津市全体をひとつの博物館として捉えるエコミュージアム(フィールドミュージアム)の概念を3館の連携・活用策の柱として、共同研究を行ってきました。

民間等共同研究員としての活動

●平成25年度の活動

主に先進的な取り組みを行っている公共施設の訪問調査を行いました。地域連携推進員や他の民間等共同研究員らとともに各施設の取り組み概要や経緯等について、担当者らへのヒアリングと施設内の視察を実施しました。「人と自然の博物館」(兵庫県三田市)では、館職員が自らのあり方を見直し、今後の館の方針を中長期的な視野で構想をまとめたこと、アウトリーチ活動を充実・発展させた展示活動、NPO法人や地域研究員などの外郭団体、応援組織との連携等について学ばせていただきました。また、「登別市ネイチャーセンター・ふおれすと鉱山」(北海道登別市)においては、多彩な体験プログラムの企画・運営にボランティアスタッフが携わっていること、



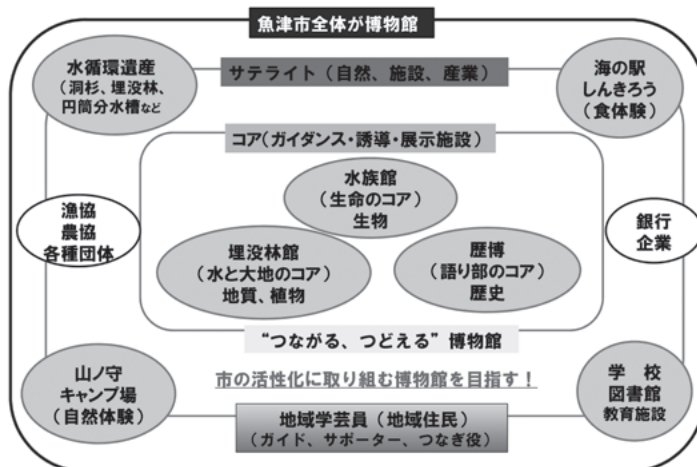
多数のボランティアスタッフのマネージメントの重要性を学ばせていただきました。博物館と指定管理者制度、子育て施設と公共施設の連携といった、人の集まる仕組みを学びました。いずれの訪問調査においても、「地域(住民)やボランティア組織との連携・協働、ネットワークの構築」が共通しており、「地域に必要とされる博物館」のヒントがここにあると考えています。



●平成26年度の活動

4月より高岡キャンパスにて「地域システム特論」を4~7月にかけて受講しました。また「魚津ゼミ」を実施し、地域連携推進員や他の民間等共同研究員とともに「博物館とは、その存在意義とは」等の課題提示から、博物館の現状やそのあり方について討議を繰り返しながら、研究の方向性を探っていきました。9月以降から2か年度にわたる共同研究活動の中間報告を作成し、市役所・教育委員会・各博物館の関係部署で報告を行い、意見交換を実施してきました。併せて次年度以降の取り

(仮称)「魚津市エコミュージアム」構想のイメージ



組みや体制等についての検討も行いました。さらに、エコミュージアム活動に取り組むNPO法人やフィールドミュージアム構想を企画した大学博物館への訪問調査による情報収集も行いました。



研究活動の成果と今後の展望

●エコミュージアム構想について

3つの博物館の連携については、従来より指摘されていましたが、魚津市の重要な地域資源のひとつである「魚津の水循環」

」をキーワードにすることで、各館の特性を生かしたつながりが可能と考えています。水循環の舞台である魚津市全体を野外博物館と捉え、3館をガイダンス機能を有する「コア施設」に位置づけます。さらに市内に点在する地域資源を結び付ける役割を担うとともに、地域と積極的に関わり、地域と博物館のつながりを重視していくことが必要と考えたものです。

●これからの取り組み

平成27年度は、構想の具体的な展開にむけて、3館学芸員の勉強会(学習会)を実施する予定です。参加する学芸員は、今後の博物館を担う若手を中心とし、博物館の方向性や将来像について、職員自らが一緒に考えていける場を大学と市の共同(協働)で実施し、同じ方向性や考えの共有化を図っていきたいと考えています。

人口減少・少子高齢化といった日本全体が直面する課題のなかで、人口4万人規模の一都市による「博物館が地域を活性化する」という目標を掲げ、具体化させていくために、職員(学芸員)自らが考え、行動できる人材となること、が第一段階と考えています。

魚津市の特異な地形がもたらす「魚津の水循環」への更なる理解や周知を図り、「エコミュージアム構想」と3館のあり方や役割・機能について、そして、今何を求められているのか等について研究していきます。